

## 健康セミナーを実施して

長崎県平戸市消防団

### 1 はじめに

平戸市は、長崎県の北西部に位置する人口3万6千人程の小さな市です。平成17年10月に平戸市、大島村、生月町、田平町が合併し、現在に至っています。市内には平戸島、生月島、大島、度島、高島の5つの有人島と普通鉄道の日本最西端の駅である「たびら平戸口駅」があります。

江戸時代には南蛮貿易の拠点として、イギリスやオランダの商館が立ち並び多くの外国人が行き来した異国情緒あふれる町として栄えました。当時の雰囲気を再現しようと、現在、オランダ商館の復元作業が進んでおり、本年9月のオープンを目指しています。

かつて、フランシスコザビエルも布教に訪れた地で、キリスト教信者も多く教会も多数あり、中には世界遺産への登録を目指す教会群に指定されたものもあります。また、仏教寺院とキリスト教会が隣り合わせに並ぶ風景は「歴史とロマンの島平戸」を象徴するものとなっています。

### 2 平戸市消防団の概要

平戸市消防団は、市町村合併により平成17年10月に4つの消防団を統合し、その後再編成を行い、現在1本部、30個分団、条例定数1,079名となっていますが、残念ながら実員は1,032名で、

47名の定員割れとなっています。

消防団員の確保には苦勞していますが、こうした中でも、本市では、平成19年10月に女性消防団員12名が入団しました。女性消防団員は、入団してすぐに全員が上級救命講習を受講し、職員と共に応急手当等の指導や高齢者宅などを訪問しての防火診断等で活躍しています。

同時期に、平戸市女性消防隊が結成され、県代表として第30回全国女性消防操法大会に出場し、指揮者の部においては優秀選手賞という輝かしい金字塔を打ち建て平戸市の消防を全国の仲間へ轟かせる快挙を達成しました。この大会での活躍は大きな刺激となり、当初12名でスタートした女性団員も今では17名となり、これからも更なる活躍が期待されるところです。

少子高齢化、団員のサラリーマン化等による消防団員の減少は、全国的な課題であり、その対策として本市では、全国約400箇所で開催された、消防団を題材としたミュージカル「地震・カミナリ・火事・おやじ」の公演を昨年7月に開催し大きな反響がありました。

この公演のオープニングでは、本市が8月からスタートした「消防団サポート事業」の指定書の交付式を行いました。

これは、商店街の協力により、地元の商店に消防団サポート事業所となって頂き、消防団員

が買い物等をする際に割引等の優遇措置を受けられる制度で、優遇措置の対象には、団員を支えるその家族も含まれています。

このように地域を守る消防団を地域全体で支え、ひいては地元商店街の活性化にも繋がるものと期待しています。

### 3 健康セミナー開催に至った経過

本市消防団では、4月に新入団員訓練、6月に幹部教養訓練、11月に秋季総合訓練を実施しています。その中で幹部教養訓練は、団員を指導する立場の幹部団員に対し、現場指揮、ポンプ取扱訓練をはじめ、普通救命講習など専門的知識と技術を習得する場として実施してきました。

平成22年度の幹部教養訓練の内容を検討する中で、頭に浮かんで来たのが、訓練等の際に目にした「活動服のボタンが弾けそうな団員」、「少

し走っただけで息を切らす団員」の姿です。特に年齢層の高い幹部団員に多く見られ、彼らの健康状態が気になりました。地域を守る消防団の活躍には、各団員の健康管理が重要だと考え、今回の幹部教養訓練には健康管理の内容を盛り込むこととしました。

また、それを具体的にどのように実施するかを検討していたとき、以前「広報消防基金」で目にした「公務災害防止研修事業」を活用しようということになり、長崎県市町村総合事務組合をお願いしてパンフレット等を取り寄せ、詳しく内容を調べたところ、目的に合致した「健康セミナー」を知り、開催することになりました。

### 4 健康セミナーを開催して

平成22年6月13日（日）日本赤十字社長崎県支部の白木直美さんを講師に迎え、消防団幹部



開会



研修風景



研修風景2

団員（班長以上）・職員合わせて145名が参加し開催しました。

セミナーは、まず、消防団員の公務災害の発生状況の説明から始まりました。そして、5年間で34名もの殉職者がいる事に驚かされました。また、その原因の47%が「脳血管疾患」「心臓疾患」等の疾病によるもので、被災者の多くは、高血圧、高脂血症、肥満などの健康上の問題点があったと聞き、団員の目の色が変わりました。

このセミナー開催の準備をしながら、団員が「真剣に受講してくれるのだろうか」、「居眠りでもするのでは…」、などと心配していましたが、そんな不安は一度に吹き飛びました。ある団員が、生活習慣病・メタボリックシンドローム等の詳しい説明を聞き、大きくうなずきながらお腹を押さえる姿が印象的でした。

セミナーを終えて会場を後にする団員から、「明日から気を付けよう」「タバコ止めようかな」などと言った声が数多く聞かれました。また、

後日回収したアンケート調査でも予想を上回る80%以上の回答があり、その中には「消防団活動のためには、まず健康が第一であり、また家族のためにも生活習慣を見直します。今回の研修を受けて改めて健康の大切さを感じました。」等の記載があり、大変好評を得ることができました。

## 5 今後の取り組みについて

昨年、本市消防団では2件の公務災害が発生しました。1件は火災現場で、もう1件は年末夜警での事故でした。

今後は、このような事故を起こさないために「安全管理セミナー」や「S-KYT研修」等の開催を検討したいと考えています。

公務災害を無くし、市民の安全を守る地域防災の要として活動している消防団員が、より一層活躍できる環境を作るための取り組みを進めていきます。